

# 群馬が待ってる。

**GUNMA 群馬県** 「新・群馬」創造

**MINAKAMI みなかみ町** 利根川源流のまち 水と森林と人を育む みなかみユネスコエコパーク 鬼頭 春二町長

**KATASHINA 片品村** ともに創ろう!! ふるさと片品 梅澤 志洋村長

**NAKANOJO 中之条町** 花と湯の町 なかのじょう 伊能 正夫町長

**SHOWA 昭和村** やさい王国昭和村 堤 盛吉村長

**KAWABA 川場村** たっぶりの自然と、のどかな田園 外山京太郎村長

**HIGASHIAGATSUMA 東吾妻町** 住民が誇りを持って暮らすまち 中澤 恒喜町長

**TAKAYAMA 高山村** 笑顔で輝く高山村 後藤 幸三村長

**NUMATA 沼田市** 天空の城下町 真田の里 沼田 横山 公一市長

**KUSATSU 草津町** 五感を撩る 風情残るまち くさつ 黒岩 信忠町長

**YOSHIOKA 吉岡町** みんなで創ろう 住み続けたい町 よしおか 柴崎 徳一郎町長

**SHIBUKAWA 渋川市** 共生社会実現のまち 渋川市 高木 勉市長

**MIDORI みどり市** 子育て、自然、文化 よりどりみどり みどり市 須藤 昭男市長

**TSUMAGOI 嬬恋村** 愛妻家の聖地 つまごいむら 嬬恋村 熊川 栄村長

**SHINTO 榛東村** 子どもに夢を みんなに 福祉と安心を 真塩 卓村長

**MAEBASHI 前橋市** スロー&スマートシティ 山本 龍市長

**NAGANOHARA 長野原町** 癒しとくつろぎの町 長野原 萩原 睦男町長

**TAKASAKI 高崎市** エキサイティングなまち 富岡 賢治市長

**ISESAKI 伊勢崎市** 夢ふくらみ 安心して暮らせる 元気都市 いせさき 五十嵐清隆市長

**KIRYU 桐生市** 山紫水明 住むなら桐生 荒木 恵司市長

**ANNAKA 安中市** つなぐ 茂木 英子市長

**TOMIOKA 富岡市** 住みたいまち ナンバーワン 富岡 榎本 義法市長

**TAMAMURA 玉村町** 未来に希望をつなぐ 玉村町 石川 真男町長

**OTA 太田市** 若者も女性もいきいき 元気なまち おおた 清水 聖義市長

**SHIMONITA 下田町** ネギとこんにやく 世界遺産 荒船風穴 原 秀男町長

**KANRA 甘楽町** キラッとかなら 安心のまち 茂原 莊一町長

**FUJIOKA 藤岡市** 花とみどりと 笑顔があふれるまち 藤岡 新井 雅博市長

**TATEBAYASHI 館林市** 日本遺産「里沼」のまち 須藤 和臣市長

**NANMOKU 南牧村** 最上級の自然 きれいな「山」と「川」 長谷川 最定村長

**UENO 上野村** 桃源郷の山里 上野村 黒澤 八郎村長

**KANNA 神流町** 小さな町の底力 心ひとつに かな町 田村 利男町長

**OIZUMI 大泉町** 人と企業が輝き、 希望あふれる協働のまち おおいずみ 村山 俊明町長

**ORA 邑楽町** やさしさと 活気の調和した 夢あふれるまち「おうら」 金子 正一町長

**CHIYODA 千代田町** 未来に向かって 町民と共に歩むまち 高橋 純一町長

**MEIWA 明和町** 仕事が好き、 家族が好き。 だから明和町 富塚 基輔町長

**ITAKURA 板倉町** 地域で支え合う 安全なまち いたくら 栗原 実町長

2020年7月末現在



# ぐんま愛 ここに生きる 2020

上毛新聞社は群馬県、県内市町村、企業・団体と協力し、若者の県内定住を支援する「ぐんま愛 ここに生きる」キャンペーンを展開中。市町村の挑戦を紙面とインターネットで紹介していきます。





自分たちが暮らす地域を、より深く知ってほしい。こんな思いを伝えようと活動する大学生や20~30代の社会人が、県内でも増えてきた。移住・定住につながる可能性のある「関係

人口」拡大の後押しや、大学生らに群馬に目を向けてもらうことを目指した機会・場所づくりなど、やり方は違っても根本は同じ。若い世代による取り組みが活性化している。

# 「まず地域を知って」若い世代 果敢に挑戦

## Yield(イールド)

店を開業することを決めた。今年春から改修に着手。経費を抑えるため可能な限り自ら作業を行った。

### 「機会あれば伝わる」

並行して商開発に取り組む。いちごミルク味は「薄紅」、マンゴーは「薄黄」という土地や織物工場だった建物にこだわった抹茶ミルク味は「千歳」

長い歴史を感じさせる梁や柱に支えられた高い天井、コンクリートの床にはテールワゴリのケールが並び、7月下旬、桐生市横山町の元染織工場の外観はそのままに、内部のみを改修してオープンしたかき氷店「彩」だ。

運営するのは群馬大と共愛学園前橋国際大の学生でつくる「Yield(イールド)」だ。代表の伊藤裕喜さん(22)は群馬大IIが、元工場の所有者に活用を持ちかけられたことがきっかけで、昨年秋ごろから活用のアイデアを練り、夏季限定でかき氷



名称や味にこだわったかき氷(写真上)とにぎわう店内



グループ名「Yield」は英語で「産出」や「古いものに新しい価値を与える」といった意味を与えることになった。

「群馬をよく知らないまま、県外で就職してしまう学生が少なくないがそれはもったいない。群馬のことを知ってもらい、就職を考える際の選択肢の一つとして目を向けてほしい。自分と同世代の人たちも、知る機会があれば魅力に気づいてくれるはず」と伊藤さん。かき氷店は、店舗運営を通して、集まったメンバーそれぞれが地域を愛する流れの楽しさを体感できる場としても活用する。

グループ名「Yield」は英語で「産出」や「古いものに新しい価値を与える」といった意味を与えることになった。さらに「横山町」や「インベーダー」など、アイディアの頭文字からつけた。その実現のため近く法人化し、10年20年と継続することを目標とする。

## Gmoto Project(地元プロジェクト)

### 「一緒に新しいことを」

本県出身や関わりのある20~30代の社会人学生らが「Gmoto Project(地元プロジェクト)」を名付けた活動を県内外で展開している。いろいろな人が集まるプラットフォーム。関係人口の拡大を目指しているが、そのために、まず地域を知ってもらう。その



マッチングイベントやワークショップを通して新たな関係が生まれている



か活動がスタートした。埼玉の女性2人でつくる朝カフェエミオもその一つ。富岡市の富岡製糸場を訪れたり、市内で読書会を開くなどして市民と交流を重ねた。今年2月には富岡産シルクの活用を考えるイベントを開催。富岡産シルクの成り立ちを学んだ

り、新商品の開発に取り組みだした。活動は新型コロナウイルスの感染拡大で中断しているが、同市職員でプロジェクトメンバーでもある岩崎さん(28)は「これまでになかった関係が生まれた。今後関係性を強め、一緒に新しいことに挑戦したい」と話す。沢渡温泉(中之条町)の活性化を目指す活動も、きっかけはマッチングイベントだった。都内で働くメンバーらが週末を中心に同温泉を訪ね、地域住民と共にアイデアを出し合ったその結果、かつて同温泉で行われていた芋煮会を復活させることに。自分たちで苗を植え、収穫した里芋を使った芋煮会を計画したが、やはりコロナ禍で中

### 「ウイズコロナ」で新たな工夫

新型コロナウイルスの感染拡大で、暮らしは大きく変わりつつあり、移住・定住を促す取り組みに新たなアイデアや考え方が求められている。渋川市は今年、ふるさと納税の使途に「Withコロナ今こそ渋川!!移住定住支援プロジェクト」を加えた。テレワーク環

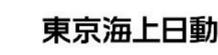
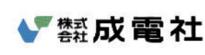
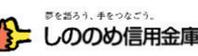
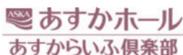
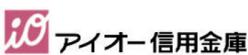
境を整えたり、空き店舗をサテライトオフィスに活用したりする事業者への補助金制度の創設、移住希望者を対象にした「お試し宿泊プラン」などを検討。休暇と仕事を組み合わせたワーケーション需要の取り込みも目指す。安中市農業委員会は本

年度、市の空き家バンクに登録された「農地付き空き家」を取得しやすくなるため、物件に付随する農地の取得下限面積を30㎡から1㎡に引き下げた。移住希望者に小規模農地と空き家をセットで売却したり、貸し出ししたりできるようにする。一方、コロナ以前から提唱されていたが、改めて注目されているのが「関係人口」だ。仕事や

家族の問題を解決しなければならない移住はハードルが高く、観光客に象徴される交流人口の拡大は不確実。それならば、都市部で働いたり暮らしたりしながら、地方で趣味を楽しみ、地域住民との交流イベントなどを通して人間関係を育て、気に入れば移住してもらおう。こんなスタンスで地域活性化を目指す動きが増えつつある。

若者定住支援プロジェクト「ぐんま愛 ここに生きる」キャンペーン協賛社

(順不同)



「ぐんま愛 ここに生きる」特設サイト 過去掲載分はこちらからお読みいただけます  
http://www.gunmaai.jp

ぐんま愛 検索

